

虫研後輩Mr.Kと早春の蝶観察



北大虫研の後輩K氏が仕事が少し楽になった折、大学時代の北海道の春の蝶と再会したいとの申し出が。

リクエスト種は何？と尋ねると、「まずなんとしてもスギタニルリシジミの♀そしてできればジョウザンシジミ、エゾヒメシロチョウ、アカマダラ、ヒメギフチョウ、チャマダラセセリかな」とおっしゃる。

う～む、なかなか難敵ぞろいではないか。富良野のホテルに2泊して私がエスコートすることに。とりあえず旭川在住の後輩Mさんに相談しながらチャレンジすることに。

5月10日

K氏が12時過ぎ旭川空港到着。予定ではこの日にまず、スギルリ♀を空港近くの〇林道で落とそうと思っていたのですが、K氏も啞然とするようなこれぞ北海道の春だと言わんばかりの寒さ。とりあえず、今回のミッションの裏参謀Mさん宅に。北海道産の見事な標本箱にK氏も釘づけ。やっぱりスギルリのこのメスの色が何ともいいんですよね。と目標の蝶たちへの思い再確認し。それでも小雨そぼ降る中、野外調査に出かける。いつものスモモの木でリンゴシジミの幼虫を鑑賞してもらい。1頭私が飼育を請け負うことに。Mさん「ゼフは要りませんか、何が好きですか？」K氏「オオミドリのあの色が好きなんですよね。」それではと車を動かす。道の脇のミズナラのひこばえで孵化したてのオオミドリを10個体ほどゲット。これも私が飼育担当に。



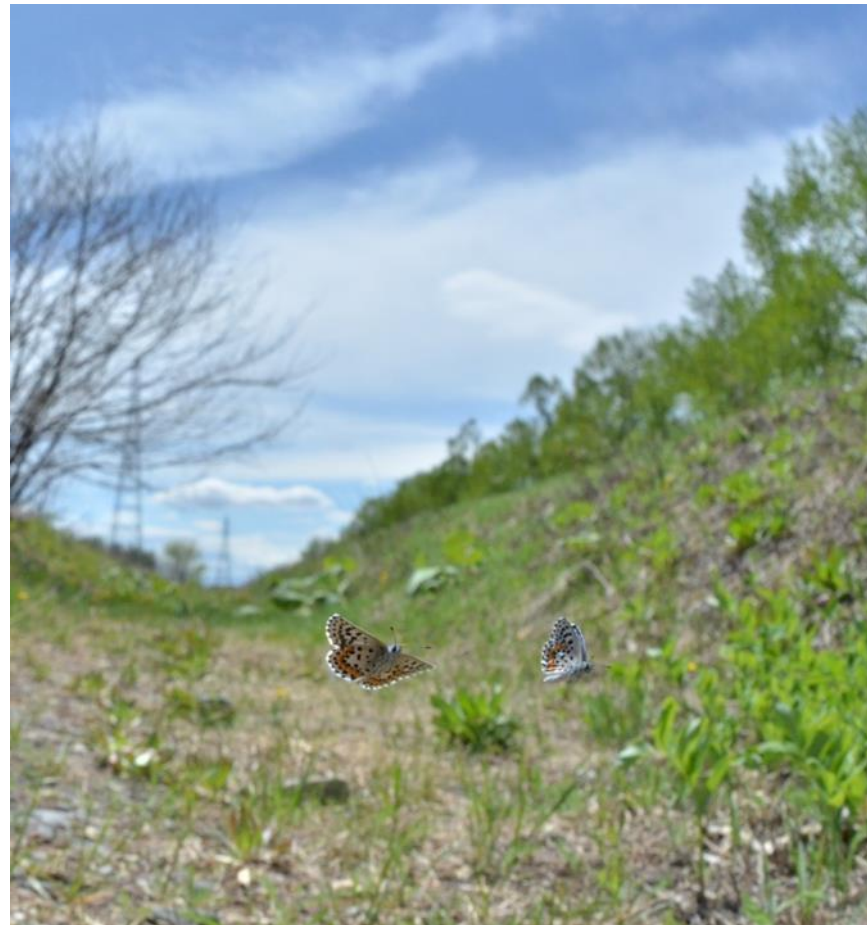
目的① ジョウザンシジミに出会う。

律儀にもマスクをはめたK氏は骨董品のような竹竿の短い網を取り出し、やる気持ちを隠しきれないニコニコ顔で探し出す。私はもっぱらカメラハンティング。タンポポが咲いている。吸蜜に来ているかな？と歩き出すとほどなくチラチラとジョウザン君が飛び出した。K氏は向こうの方で網を振っている。どうやらゲットしたようだ。ミッション①成功のようだ。白いチョウもふわふわと舞っている。エゾヒメシロだ。ミッション②も成功の様。チャマも1頭飛んできた。これはカメラにも網にも押さえきれなかった。かれはどうだったのかな。

ニコニコ顔で帰ってきた。曰く「ジョウザンシジミのイメージがなんだか崩れ落ちますな。こんなところにいいんですか？」

「そうだよ。実はこのオベンケイソウという栽培種が食草になっていて、こんな人工的な砂礫がちな土手に進出しているんだよね。まあどこからか飛んできたんだろうね。図鑑にはイフベンケイと書いてしまってた手直ししたいんだ。」などとウンチクを語る。

「ジョウザンシジミといえば八剣山のあの崖ですよ。そうそう、黄金湯なんかにもいてさあ、と昔話。」
「でもね、富良野の我が家の庭のキリンソウでも夏型が突然羽化して、びっくりしたよ。♀は新天地を目指して結構飛ぶのかもね。」
「本州のクロツバメもそんな感じかな。」とK氏とちよっと深い蝶談義。



ジョウザンシジミの求愛～交尾

カメラハンティングでは求愛から交尾を観察できたので紹介します。



♀(右)を見つけた♂が追いかけはじめました。いわゆる追飛行動です。
地面から数十センチの高さを縫うように飛んでいます。



♀が地面に降りました。♂が後ろから近づきます。♀は少し移動してまた地面に止まったところを♂が後ろから腹を曲げながら近づきます。



ついに交尾が成立しました。♂が少し飛んで枯葉の上に止まります。ちょっと悪戯して手に載せてみます。♀の方が少し体が小さいようです。今が発生のピークなんでしょう。これから♀は産卵行動に移るのでしょう。

K氏はチャマも1頭ゲットし、エゾヒメシロもかわいそうだけど少しいただくねと三角紙へ。ご満悦の様子で、近くのアカマポイントへ移動。ここはA先生と卒論指導のための夏型のアカマの卵と幼虫をゲットしたところ。

広い河川敷の中にある大きなドロノキなどのヤナギ類やハンノキなどの河畔林が広がっている。

アカマ春型は少ないながら飛んでいます。エゾヒメシロなども交え、少々網をふるって満足した後、お昼にしましょうと土手に登る。

「蝶採りってつくづくいい趣味ですよ、とお互いに納得しながらセコマのおにぎりをパクつく。



広い河畔林。気持ちがいい。

まだ時間があるので十勝川温泉のチャマポイントに行きましょう、と車を動かす。

しかし、だんだん天候が怪しくなってくる。現地に着いた時には、上空に厚い雲が覆ってくる。気温も低くなって全然蝶の飛ぶ雰囲気はない。伐採後の草地の上でオオジシギがさかんにディスプレイフライトをやっている。久しぶりに聞く。なんでオーストラリアからやってくるのかなあ？とぶつぶつ言いながらキジムシロの豊富な斜面をお互いウロウロするも蝶影なし。

こんな小さな葉っぱに卵を産むんだよなあ
とミツバツチグリの葉をひっくり返すと、なんと本当に産みだての卵が。なんということか、とK氏を呼んで見せる。俺の手は、やはり神の手(ゴッドハンド)なのか。そうですな、と、一般人には不明なつまらぬ会話を交わす。こんなところにオオバナノエンレイソウが、と写真を撮って今日は終了。



5月12日

今日は最終日、ここまでジョウザンシ、エゾヒメシロ、アカマ、チャマ、エゾヒメシロとミッション5つをクリアしている。残すはスギルリの♀とヒメギフだ。スギルリの♂はハードルは低いが♀はなかなかきつそうだ。しかし今日の富良野は朝から周囲の山々が白く晴天に輝いている。コンディションは抜群なので、あとは蝶屋の力量のみ。

1日目にスルーした〇林道へ向かう。勝負はフライトまでの午前中。下見でマークした食草ミズキの周辺をターゲットにしよう。



林道から離れて、どこに行く？ 怪しい男

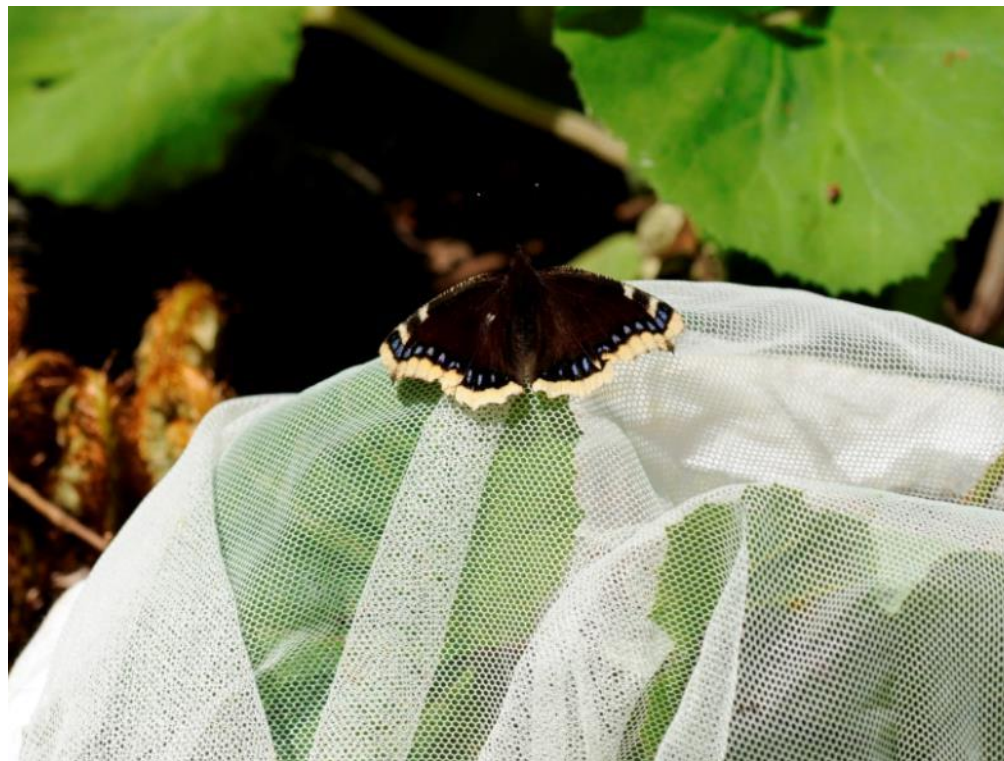
林道に入ると、すぐにスギルリの雄が迎えてくれる。例によって湿地で吸水に集まっている。明るいブルーのもいますねと。きれいなのを三角紙に収めていく。これが発生木と思われるミズキの木ですね。このへんにこないかなあ？と、ぶつぶつ言いながら私もネットを振っているとなんか違う色の個体が。昔取った杵柄、網を一閃ネットイン。やったあ早だ。お〜い採ったぞ。と、K氏に駆け寄ると、かれもゲットしましたとのこと。「やっぱチコのブルーが何ともいえないですな。」とご満悦。よかった、よかった。



K氏はヒメギフもいましたよと、きれいなメスを見せる。なんとこれで全部クリアですな。大満足ですな。林道わきの明るい草地にはアカマダラが飛んでいる。コツバメやスギルリがスミレ類、エゾリュウキンカやニンソウで吸蜜している。林道には越冬タテハが日光浴。これが北海道の春ですな。またまた、蝶採りっていい趣味ですよ。と還暦を過ぎた高齢者たちは、山菜採りの中年夫婦を眺めながら、チョコレートをかじるのでした。K氏は林道の車の脇で、虫捕りスタイルから社会的地位に相応した服装に着替えて、空港に向かうのでした。こんないい味を占めた彼ならばまた来ることになりそう。今度はゆっくり飲みたいものです。



ちょっと産卵したそうだったアカマダラの♀



マイネットに止まったキベリタテハ。

おわり

By :T,Nagamori